

脱コロナ禍にむけて！！

コロナ禍が明けようとしています。3月13日から、市役所内でのマスク着用については、窓口対応する職員を除き原則自由としています。あわせて、窓口のついでにも撤去しました。はじめのうちは戸惑われる人もいましたが、市民の皆さんも徐々に気にならなくなっているようです。今後もコロナ禍前の生活にもどすために制限を少しずつ取り除いていくこととしています。

■「住みたい田舎ベストランキング」

さて、1月4日のいきがけ新聞に「23年版住みたい田舎ベストランキング」：人口20万人以上、参加38自治体中…秋田市、総合部門1位」という記事が掲載されました。

このランキングは、宝島社が全国の自治体から回答されたアンケートを集計し、月刊誌「田舎暮らしの本」2月号にて毎年発表している企画です。お伝えしたいのは、にかほ市も秋田市に見劣りしない結果だったということです。

今年からランキングの内容が変わり、人口規模による分類となりました。にかほ市は2〜3万人規模の市町グループに入ります。にかほ市はそのグループの中で、総合部門で第9位、子育て世代部門で第6位、若者世代・単身者部門で第8位、シニア世代部門で第19位となっています。

また、東北地方全体での結果も公表されており、人口規模に関係なく、にかほ



有限会社出羽林業

自然の中で技術を磨き、
地域の山とライフラインを守ります！

私たちは、電力会社の電線の下に接近している樹木の伐採や伸びた草の下刈り、重機などを使用した間伐のほか、庭木の剪定などの業務を主にを行っています。

林業は機械を使用するので危ない部分もありますが、会社一丸となって安全第一を掲げ互いに注意や声掛けをよくし合いながら作業を行っています。毎日8時の朝礼後、全従業員が4人から5人の3グループに分かれ、それぞれの現場に向かいます。体を使う仕事なので体力のある人や体を動かすことが好きな人には向いています。最近ではデジタル化も進んでいるので伐倒から長さを揃える玉切りまで重機のコンピューターで行います。

流れ作業ではない現場ごとに異なる状況での作業は日々勉強です。大きな木をうまく狙った方向に伐倒できた時や、樹木に登った時の伐採など徐々に難しい作業ができるようになった時は、自身の技術や知識の向上を感じます。間伐作業後の林内の仕上がりを見ると、きれいになったなど感じ、こうした仕事の成果が目に見える点もやりがいにつながります。

山の中の作業は、春は山菜、夏はカブトムシなど、四季を肌で感じることもできるのも魅力です。年齢層は20代から70代と幅広いですが、先輩たちとも楽しくコミュニケーションをとれる職場で、仕事だけでなくプライベートでも社員同士で交流するなど仲はとても良いです。

必要な資格もありますが、秋田県の制度や会社のサポートもあるので安心して資格を取得できます。私たちも未経験者でしたが、今はバリバリ働いています。気持ちの良い自然の中で体を動かしながら一緒に林業を始めませんか。

企業情報

安全第一をモットーに東北電力線の送電線下、配電線下の伐採作業のほか、林業全般を行っています。チェーンソーや刈払機、それにさまざまな重機を使用している作業。自然の中で爽快感を味わえる仕事です。初めて林業に携わる人でも林業に関する知識や技術が習得できる秋田県の制度を利用し、人材育成にも力を入れています。

所在地 にかほ市象潟町大砂川字トド盛 44-1
事業内容 高圧線下伐採、配電線下伐採、間伐、民家の庭木伐採 ほか
従業員数 16人(うち男14人・女2人)
電話 0184-46-2857
Eメール dewasuto@rudyl.plala.or.jp



「にかほbiz」に掲載する事業所を募集しています！

若者や女性の採用に積極的な事業所やイチ押しの魅力などを持っている事業所を紹介します。申し込みは商工政策課(☎43-7600)まで！



にかほ市移住・Uターン・お仕事支援ポータルサイト



市は東北総合で第7位、県勢の中では秋田市に次いで第2位となっています。

にかほ市が、東北総合のトップテンに初めて入ったのは4年前でした。このことは4年前の市長コラム「魅力ある地域づくり(No.7)」でも取り上げていたもので覚えている方もおられるかと思いますが、それ以来、にかほ市は東北トップテンから外れることなく、常に魅力あるまちとして高く評価されています。

■これまでの取組みのあらわれ

3年間のコロナ禍による行動制限の間に、市はアフターコロナに向けた準備をしてきました。もちろん、コロナ禍以前から計画してきた事業もあります。ただ、アウトドアアクティビティ拠点のように、そもそもが市を活性化させ、多くの人に選ばれるまちを実現したいとの思いではじめた取組みが、アフターコロナの方向性と相まって、その意味合いがさらに強まっているものもあります。

また、にかほ市への移住者がここ数年増えてきていますが、そのアンケート結果に、にかほ市を選んだ理由として、「自然豊かな環境」や「良質な子育て環境」が多数上げられており、これまでの市の取組みやPR活動などの効果が徐々にあらわれはじめていることをうかがい知ることができます。「住みたい田舎ベストランキング」へのランキングはまさにそのあらわれと言えます。

■あらためて取組むべきこと

他方で、コロナ禍の3年間に最もがま

んを強いられたのは、重症化リスクの高かった高齢者の皆さんでした。コロナ禍による外出自粛によって、集落サロンや老人クラブ活動など、高齢者の皆さんが楽しみにしている地域イベントが軒並み中止されました。市も敬老式などを中止し、公民館等の公共施設も長期にわたりに閉鎖しました。多くの人の心が沈んでいくのが手に取るようになりましたが、かと言って行動制限はしなければならず、苦しい選択の連続でした。

私は、かつて福祉現場で働いていたときに、「ふつうに暮らすことの大変さ」を強く感じるものがたくさんありました。特に高齢者の皆さんが住み慣れた地域でふつうに暮らしていくことの大変さをつくづく感じてきました。

行政の役割は、多くの人がふつうに暮らすお手伝いをするのだと思います。介護予防や見守り支援、居場所づくりや生きがい支援など、決して派手ではない取組み、多くの高齢者の皆さんにとって当たり前のサービスを丁寧に作り上げていくことこそが大切なんだと思います。私にとつてコロナ禍は、そんな当たり前のことを改めて思い起こさせてくれる3年間でもありました。



にかほ市長
市川雄次

市政運営から日常の出来事まであらゆるテーマをコラムにしています。過去のコラムは市HPからご覧いただけます。

